

リンゴわい性台木「青台3」の挿し木繁殖性

新谷潤一

(青森県農林総合研究センターりんご試験場)

Propagability by Hardwood Cuttings in Dwarfing Apple Rootstock 'Aodai 3'

Jun-ichi ARAYA

(Aomori Prefectural Agriculture and Forestry Research Center, Apple Experiment Station)

理、調査方法は(1)と同様である。

1 はじめに

青森県農林総合研究センターりんご試験場(旧青森県りんご試験場)では、1975年にマルバカイドウにM. 9を交配し、これらの交雑実生から挿し木繁殖が可能なわい性台木として「青台3」を選抜し、2001年に品種登録した。本研究では「青台3」の挿し木繁殖性について検討したので報告する。

2 試験方法

(1) 挿し穂の採取部位と挿し木繁殖性

1997、1999～2002年の4月上中旬に「青台3」1年枝の基部、中央部、先端部のそれぞれから長さ15～20cmの挿し穂を取り、下部を斜めに切って、深さ10cmで挿し木した。また、1999年4月19日に「青台3」1年枝の基部、中央部、先端部のそれぞれから挿し穂重量約6.5gの挿し穂を取り、同様に挿し木した。挿し木本数は1区10本とした。

挿し木床として、発泡スチロール箱(内法52cm×32cm×22cm)に黒ボク土を入れ、その表面を黒色ポリフィルム(厚さ0.03mm)で被覆したものを用いた。1箱当たりの挿し木本数は10本とした。かん水は地表面が乾いたら随時行い、7月後半以降は毎日行った。肥料は、5月下旬から8月下旬まで約2週間間隔で育苗用肥料(窒素15、リン酸8、カリ17)の100倍液を1箱1回当たり5ℓ施用した。その他は通常の方法で管理した。

調査は、11月下旬に根を傷めないように苗木を掘り上げ、解体して行った。新梢長は活着した苗木の平均とした。良苗は新梢基部径9mm以上で根重15g以上のものとし、良苗率は挿し木本数に対する良苗の割合とした。

(2) 挿し穂用1年枝の採取時期と挿し木繁殖性

2000年12月15日、2001年2月14日及び3月15日に「青台3」の1年枝を採取し、0℃の冷蔵庫で保管した。2001年4月19日に1年枝の基部、中央部、先端部それぞれから長さ15cmの挿し穂を取り、深さ10cmで挿し木した。挿し木本数は1区10本とした。挿し穂の調整、挿し木床、挿し木後の管理、調査方法は(1)と同様である。

(3) 挿し木時期と挿し木繁殖性

2001年3月30日、4月9日及び4月19日の各時期に「青台3」の1年枝の基部、中央部、先端部から長さ15cmの挿し穂を取り、深さ10cmで挿し木した。挿し木本数は1区10本とした。挿し穂の調整、挿し木床、挿し木後の管

(4) 挿し穂切り口のカルス形成度と挿し木繁殖性

2001年及び2002年に、「青台3」1年枝の基部、中央部、先端部から長さ15cmの挿し穂を取り、下部を斜めに切り、温室に静置して挿し穂切り口にカルスを形成させ、挿し木した。温室は、蓋付きのプラスチック容器を用い、容器の底に2～3mm程度に水を張り、蓋をして作った。挿し穂は、直接水に触れないように容器内に台を置き、その上に水平に並べた。温室での温度及び日数は、2001年には室温10日及び20日、20℃5日、10日及び15日、2002年には20℃5日、7日及び10日とした。挿し木は2001年4月19日及び2002年4月8日に行った。挿し穂切り口のカルス形成度は挿し木直前に調査した。挿し木本数は1区10本とした。挿し木床、挿し木後の管理、調査方法は(1)と同様である。

3 試験結果及び考察

(1) 挿し穂の採取部位と挿し木繁殖性

活着率は、基部が90%と明らかに高く、先端に行くにつれて低下した。新梢生育、良苗率も活着率と同様の傾向であった(表1)。また、挿し穂の重量を揃えて挿し木した場合でも、この傾向は変わらなかった(表2)。このことから、「青台3」の挿し木繁殖性は基部が高く、先端に行くにつれて低下すると考えられた。

(2) 挿し穂用1年枝の採取時期と挿し木繁殖性

繁殖性は、穂木の採取時期の違いによる差がほとんどなく、穂木の採取部位によって大きく異なった。すなわち、活着率はいずれの時期に採取した穂木においても基部と中央部が80%以上と高く、先端部は30～40%と低かった。新梢生育、良苗率はいずれも基部が最も良好で、先端に行くにつれて劣る傾向にあった。良苗率は、いずれの時期に採取した穂木においても基部では50～80%であった(表3)。このことから、「青台3」の1年枝採取時期は、休眠期間中であればいつでもよいと考えられた。

(3) 挿し木時期と挿し木繁殖性

活着率は、3月30日の挿し木が4月9日及び4月19日の挿し木より劣る傾向であった。新梢生育は、試験(1)及び(2)と同様に、いずれの挿し木時期においても基部から採取した穂木が最も良好で、採取部位が先端に行くにつれて劣る傾向にあったが、良苗率には一定の傾向はみられなかった(表4)。2001年の消雪日は3月29日、品種「ふじ」の発芽日は4月9日であり、いずれも平年

